

経済人として 安全保障に どう向き合うか

全国44
経済同友会共催
第35回
全国経済同友会
セミナー
(長崎大会)

経済同友会は4月13～14日、全国44経済同友会共催による第35回全国経済同友会セミナー(長崎大会)を開催した。完全対面形式での開催は4年ぶりとなった。今回は経済安全保障を軸に、国際社会を取り巻く現状と課題、サプライチェーン、企業経営者としての向き合い方を討論した。(所属・役職は開催時)



開会

今回は全国44経済同友会から約1,200人が参加、開会挨拶で市川晃 副代表幹事・全国経済同友会セミナー企画委員会委員長は「コロナ禍により、サプライチェーンが世界をつないでいることをあらためて認識させられた。他方で地政学的な緊張も増している。今回の第1セッションは専門家からの問題提起や最新知見、第2セッションは各業種・業界で生じている課題共有、第3セッションは経営者が安全保障に向き合う視点を中心に構成した。国際情勢や安全保障への理解を深め、経営者として何をすべきか考える機会にしたい」と語った。

続いて森拓二郎 長崎経済同友会代表幹事と大石賢吾 長崎県知事の歓迎挨拶と来賓祝辞があった。翌日にはジャパネットホールディングスの高田旭人 取締役社長兼CEOが「民間主導の地域創生モデルについて～長崎スタジアムシティプロジェクトにかける想い」と題し、講演した。

■第1セッション概要

世界を取り巻く安全保障の現状と今後の国際秩序形成への課題

○モデレーター

吉崎 達彦 双日総合研究所 チーフエコノミスト

○パネリスト

鈴木 一人 東京大学公共政策大学院教授／国際文化会館 地経学研究所長

中尾 武彦 元財務官／元アジア開発銀行 総裁／みずほリサーチ&テクノロジーズ 理事長

兼原 信克 元内閣官房副長官補・国家安全保障局次長／同志社大学 特別客員教授

世界の秩序が大きく変わる中、事業を進める上で安全保障が重要となってきた。WTOによる自由取引を土台に経済のグローバル化が進んできたが、戦後の国際秩序自体は揺らぎ、政治のために経済を手段とする時代となった。戦略的に中核部分を絞り守ることが重要だ。

米国と中国が即座に緊張関係に陥ることはないだろうが、経済の対立は半導体規制のような場面に表れる。ロシア・ウクライナ戦争の先は見えず、国連安保理で解決できるという前提も崩れた。日本企業は多額の海外直接投資を行い、サプライチェーンを構築してきた。それはグローバル化の成果の一つだが、修正の必要も出てきている。

一方で現代の戦争では、情報処理が大きな影響を及ぼす。衛星画像による戦略判断やサイバー攻撃がその一例だ。半導体などの最先端技術がここにかかわってくる。昨年、経済産業省が戦後初めて安全保障を産業政策に入れた。米国などは、先行して最先端技術を管理する仕組みを整備している。5年ほど先の国際貿易については、欧米・印・

ASEANを中心に自由貿易が発展していくという見方や、米国が国際貿易への関与を弱めていくという見方、中国との対話と抑止など、いくつかの方向性が考えられる。経済安全保障に限らず企業活動をいかにリスクから守っていくか、各社は真剣に考えていくべきだ。人権問題なども含めたレピュテーションリスクからサイバーセキュリティ対策まで、幅広く気を配るべき時代になってきている。

■第2セッション概要

サプライチェーンにおける経済安全保障

○議長

國分 俊史 東京大学先端科学技術研究センター 経済安全保障研究プログラム 特任教授

○パネリスト

田村 興造 広島経済同友会 代表幹事(広島ガス 取締役会長)

宮崎 直樹 中部経済同友会 代表幹事(トヨタ紡織 取締役副会長)

佐々木 威知 北海道経済同友会(セコマ 執行役員)

地政学上のリスクが高まり、これまで以上にセンシティブな対応が必要だ。特にサプライチェーンについては、起り得る事態を多角的に確認し、レジリエントな道筋を考えておく必要がある。台湾海峡で軍事的緊張が高まれば、物流に多大な影響が及ぶだろう。リス

ク低減のためには日豪シーレーンを事前に機能させておくことも考えたい。

広島ガスは液化天然ガスの安定調達について、地政学的なリスクをはじめさまざまなリスクや、供給途絶に備えた官民の役割などを踏まえ、都市ガスの安定供給に万全を期している。セコマは近年、原材料価格の上昇や紛争による供給停滞などに直面、他社連携も含めてサプライチェーン再構築を進めている。トヨタグループでは、半導体不足や国家間対立のリスクを視野に入れ、官庁・経済界の連携を強化しつつある。

世界に目を向けると米国は、リマニユファクチュアリング政策を経済安全保障政策と接続し、展開し始めた。米国の総需要の25%を満たす製品・サービスを他国のものへ切り替える際のルール整備の可能性も指摘されている。また、経済インテリジェンスの観点では、米国FBIは近年、企業と密に連携した産業スパイ対策に力を入れている。日本でも各国で議論される安全保障対策を踏まえた自主ルールを定め、その遵守を客観的に証明する経営が重要となる。

■第3セッション概要 企業・経営者は安全保障に どう向き合うか

○議長

角元 敬治 関西経済同友会 代表幹事
(三井住友銀行 取締役副会長)

○パネリスト

大山 健太郎 仙台経済同友会 終身幹事
(アイリスオーヤマ 取締役会長)

刈辺 美紀 沖縄経済同友会 代表幹事
(ジェイシーシー 取締役会長)

吉田 伸弘 関西経済同友会 国際シンポ・フォーラム企画実行委員会 委員長
(住友商事 常務執行役員)

杉野 利幸 関西経済同友会 安全保障委員会 委員長
(三紀ホールディングス 取締役社長)

アイリスオーヤマは尖閣問題による中国での不買運動、コロナ禍におけるコンテナの遅延の影響などを乗り越え

てきた。住友商事は2014年のロシアのウクライナ東部侵攻の際、派遣員のみならず、ウクライナ全土の契約ディーラー仲間の「安全確保」をトッププライオリティに据えて行動した。関西経済同友会は安全保障について、20年以上前から韓国と意見交換を毎年行ってきた。沖縄経済同友会は国防への理解と備えが重要との認識から、陸海空自衛隊の基地視察、有事を想定した机上訓練を行っている。安全保障環境の変化を想定し、原材料調達先の多様化やサイバーセキュリティの官民連携などは日頃から強化しておきたい。同時に、ソフトパワーを活かした民間主導の国際関係性づくりも大事である。

業種が違って幅広いサプライチェーン中でつながっていることが、今回のロシア・ウクライナ戦争によって再認識された。情報を収集し、いち早く変化を察知・対応できる力が求められる。有事を想定したシミュレーションや、拠点の国内回帰などを考える必要もあるだろう。

特定の国や企業に依存し過ぎず、自律性を高めていくこと、半導体や量子コンピューターなどの先端分野で国家のクリティカルアセットを育み、他国にとって必要不可欠な存在になっていくことが、わが国全体の安全保障に貢献する。

総括挨拶

経済同友会 代表幹事 櫻田 謙悟
経済安全保障では、譲る部分と守る

べき部分を明確にすることが最も重要だ。社内で推進する人材の育成も、サプライチェーンのリスク回避に欠かせない。

実利はイデオロギーを超えることもあり、相手にとって必要不可欠な存在とみなされることが強みとなる。ただし純粋な経済合理性はもはや成り立たず、安全保障と表裏一体で経済合理性が成立する時代だ。経営としてこうした観点を押さえていくべきだろう。

各セッションで語られた内容は、戦略的自律性、戦略的不可欠性、戦略的対話という3点が共通する。国内回帰の話は戦略的自律性であり、民間のソフトパワーは戦略的対話の観点だ。俯瞰的に情報を集めて決断し、行動するのが経営者の役割であり、それを可能とするのが全国の経済同友会ネットワークだ。

閉会

冒頭に次期開催地である福井経済同友会の林正博 代表幹事による挨拶があった。北陸新幹線の工事が急ピッチで進められており、開業直後の福井県での開催となる予定だ。次いで田上富久 長崎市長より、古くから外部交流の地になってきた長崎で、日本の経済を支えているメンバーとの交流ができたことへの謝辞が述べられた。最後に東晋 長崎経済同友会代表幹事より、閉会挨拶が行われた。

プログラム

(所属・役職は開催時)

4月13日(木).....
■開会・オープニング
開会挨拶 市川 晃 経済同友会 副代表幹事/全国経済同友会セミナー企画委員会 委員長(住友林業 取締役会長)
歓迎挨拶 森 拓二郎 長崎経済同友会 代表幹事(十八親和銀行 取締役会長)
来賓祝辞 大石 賢吾 長崎県知事
■パネル討論(第1セッション) ■パネル討論(第2セッション) ■懇親会
4月14日(金).....
■パネル討論(第3セッション)
■総括挨拶 櫻田 謙悟 経済同友会 代表幹事
■特別講演 民間主導の地域創生モデルについて~長崎スタジアムシティプロジェクトにける想い~
講師 高田 旭人 ジャパネットホールディングス 取締役社長 兼 CEO
■閉会・エンディング
次期開催地代表挨拶 林 正博 福井経済同友会 代表幹事(福井銀行 取締役会長兼代表執行役)
御礼挨拶 田上 富久 長崎市長
閉会挨拶 東 晋 長崎経済同友会 代表幹事(長崎放送 取締役社長)